

佛教大学広報誌

B-ism

佛教大学

NO.12

B-ism
No.12

発行日
2016年(平成28年)6月20日

発行者
田中 典彦

編集者
広報委員会

編集・発行
佛教大学広報課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-2141(代表)
www.bukkyo-u.ac.jp/

撮影場所 紫野キャンパス

巻頭特集 | スペシャル座談会
2 共に、できることから始めよう

10 B・I・I 研究報告

文学部中国学科
瀬邊 啓子 准教授

14 輝き Close Up 活躍する学生たち

6 「密着！千葉セミ」教員・研究紹介
社会学部 現代社会学科
千葉 芳夫 教授

12 クラブ・サークル見聞録

卓球部、映画部

16 hot TOPICS 大学の動向

8 学生編集室の窓
酒づくりプロジェクト

13 Favorite 「先生のお気に入り」

保健医療技術学部看護学科
濱吉 美穂 講師
「アロマオイル」

22 B-Information みんなの掲示板

20 第9回 小学生俳句大賞 ほか

共に、できることから始めよう

オール佛大で取り組む、障がい者支援

学生支援機構長 学修支援課長
松本 真治 教授 || 司会 進行

今年4月、行政機関や事業者に向け、障がい者支援について定めた法律が施行された。教育機関にも

学生相談センター長
免田 賢 准教授

対応の体制構築が求められており、本学でも取り組みが始まっている。

健康管理センター長
石岡 千寛 教授

今回の座談会テーマは、佛教大学の障がい者支援。関連機関・部署の先生方に、考え、実績、展望を語ってもらった。

生涯学習機構長 障がい者就労委員会委員長
藤松 素子 教授

「合理的配慮」の解釈と、情報共有のポイント

松本真治（以下、松本）

新法のポイントは、行政機関や本学を含む事業者に対して、障がいを理由とする「不当な差別の取り扱いの禁止」、また、障がいのある人にとって日常・社会生活を営む上で障壁となるような事物、制度、慣行、観念などを「合理的配慮」に

藤松素子（以下、藤松）

大学はあくまでも教育機関です。高等教育の提供を



「障害者差別解消法」とは？
正式名称は「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」。障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、共に生きる社会をつくることをめざすものです。

- POINT**
- 「不当な差別的取り扱いの禁止」=行政機関等(国公立大学含む)、事業者(私立大学含む)共に義務
 - 「合理的配慮の提供」=行政機関等(国公立大学を含む)は義務、事業者(私立大学を含む)は努力義務
 - 行政機関・事業者は、施設の構造の改善や設備の整備、情報公開、関係職員に対する研修など、必要な環境の整備に努めなければならない

免田賢（以下、免田）

二点あって、一つは法律によって、これまで個人の善意や人間性に依拠していた支援活動に根拠ができたこと。二つ目はやはり「合理的配慮」の解釈の仕方です。大学の判断が問われるところ。ただ、障がいを本質的に理解し、外的な配慮、つまり必要な設備を整えて援助ができれば、心理的な成長を促すといった内的な配慮もスムーズになるのではと期待を持っています。

石岡千寛（以下、石岡）

障がいのある方にも等しいです。

松本 確かに大学、教職員の支援範囲については議論があります。高等教育を提供する教育機関としては、障がいの有無が、例えば教育の本質とか、評価基準を変えるものになってはいけません。すべての学生が同じように学べる環境の整備が求められています。

石岡 身体的障がいには比較的周りの人に見えやすいです。支援についても医師の判断をもとに障がいのレベルが決定され支援の指示がなされるので、具体的なサポート方法がわかりやすいです。

免田 支援については、支援する人が一番やりやすい



文学部英米学科教授。佛教大学院文学研究科修士課程修了。龍谷大学大学院文学研究科修士後期課程満期退学、龍谷大学文学部特定講師、佛教文学部専任講師、同准教授を経て現職。専門は英文学、英語教育。

松本真治 (まつもと まこと)

方法で良いのではないでしようか。私は臨床心理士として、発達障がいの子を持つ親の支援に携わってきましたが、子を褒めるのが苦手な母親にいくら強要しても実行できないものなんです。同様に教育的な自負を持った先生に、いきなりやり方を変えろと迫ってもダメで、支援する側にとってもその方法が合理的でなければ、必ず無理が生じます。藤松 学生が大学入学までを受けてきた支援内容や方法を理解しておくことが肝心です。まずは学生から、場合によっては家族を通じて情報を収集・共有し、相

各所で実施されている支援策の実情

松本 先生方は本学の障がい者支援を担う機関・施設の責任者でもいらっしゃいます。私も学生支援機構と学修支援室に属しています。が、前者は通学の学生を対象に、後者は通信の学生も含めて支援を行っています。学生支援課と学修支援室では、担当教員への配慮依頼に始まり、聴覚障がい者にはノートテイクや手話通訳の手配、映像教材の文字起こし、視覚障がい者には板

書のポイントテイク、文字拡大機の貸し出し、その他、補習に協力してくれる院生サポートとのマッチングや学生ノートテイカーの育成にも携わっています。藤松 生涯学習機構は、通信教育課程の学生が対象。支援は通学とほぼ違いはありません。学生との面談で細かに情報を収集し、試験実施の配慮やスクリーニングの際のサポートも行います。石岡 健康管理センターでは、病気や障がいのある人に対して、まず入学時の健康診断の際に面談を行い、学生生活上の困難を確認し、必要があれば関係機関への連絡や相談をお勧めします。また、実習先や就職活動先への健康診断証明書の作成、学内での静養スペースの提供も行っています。免田 学生相談センターでは、学生の悩みを相談員が一对一で聞き解決に導く、もしくはグループワークの機会を提供するなど、居



石岡千寛 (いしがき ちひろ)

教育学部臨床心理学科教授。京都大学医学部卒業、京都大学大学院医学研究科修士課程修了。松江赤十字病院小児科部長などを経て本学へ赴任。医学博士、小児科専門医。専門分野は小児医学、病院臨床、障がい児心理。

場所作り”に寄与。障がいのある学生の就職支援として学内施設でのアルバイトの斡旋や、就労訓練、インターシップ活用サポートも行い、障がいへの理解を深めてもらえるような学生向け講演会の企画も行っています。継続性のあるサポートを実現させるために

継続性のあるサポートを実現させるために

松本 新法施行以前から、本学では障がいのある学生への支援検討を行い、より手厚い支援の実施をめざしています。私は各部署、専門機関とのスムーズな連携



藤松素子 (ふじまつ すこ)

社会福祉学部社会福祉学科教授。立命館大学産業社会学部卒業、立命館大学大学院社会学研究科修士課程修了。社会学博士。専門分野は社会福祉理論、地域福祉論。

石岡 病気や障がいの種類によっては、障がいの情報共有を希望しないことがあります。窓口の一本化、各機関の連携には慎重さと配慮が必要です。その他にエレベーターやスロープの増設への着手などのハード面、サポートをする職員やボランティア学生の確保などのソフト面での充実も行っていく必要があります。免田 新法における支援対象者は、障害者手帳のあるなしに関わらず、援助を必要とするすべての人となっている。誰にでも精神的な危機状況は訪れますから、不自由だな、

免田賢 (めんだ けん)



教育学部臨床心理学科准教授。関西学院大学文学部卒業、関西学院大学大学院文学研究科修士課程修了。臨床心理士。専門は行動療法、心発達障害のある児童・青年への行動支援。

不便だなと思っている人すべてが恩恵を受けられるような体制が望ましいでしょうね。人の気持ちを理解すると同時に自分自身を知る機会にもなり、課題に対して知恵を出し合って解決していける体制、大学を実現したい。その観点から私も誰もが気軽に相談できる窓口の設置は意義深いですね。松本 体制作りや支援は特定の人間、部署がやるのではないということ発信したいですね。他人事ではなく、オール佛大で進めています。この点が重要だと考えます。何より本学は、仏教

を礎とする建学の理念において、苦しむ人への配慮、行動について法律に先んじて明文化しています。藤松 支援を行う教職員をサポートする仕組みも必要でしょう。窓口は学生に限らず、皆に開かれた場にするべきです。石岡 まずは、ちょっとしたボランティア精神を持ってもらうことが大切。障がい者と触れ合う機会がなかったために、サポートの仕方がわからないという学生や教職員も多いので、支援のための情報提供も必要です。

免田 法律ができる構成を企図して、より総合的な相談窓口を設けたいと考えているんですが、先生方は今後の本学の体制はどうあるべきだと思えますか？藤松 通学・通信ともに支援の基本スタイルは統一すべきだと思います。ただ、障がいは千差万別、柔軟な対応が求められます。過度な負担があってははいけません。本学の社会福祉や医療技術に関わる学生の力を借りることも一考でしょう。学生のパワーを活かすことができれば、日常生活の中で支え合うことが十分可能だと思います。



全員が初めから明確なテーマを持っていただけはない。「関心のあること、興味のある事柄を研究に置き換えるのは難しいし、それが社会学の範疇でなければならぬから、迷いが生じるのは仕方がない」。ス

ある日の千葉ゼミ ハラスメントを問題化したのは?

この日の発表は2人。どちらも教員をめざすゼミ生で、テーマは教育関係だ。子どものいじめ問題の解決策を、実例とともに、大人のハラスメント行動と比較して論じていこうとする発表者に対して、ある質問が投げかけられた。「ハラスメントと言われるような行為は昔からあったと思うけれど、なぜ最近になって特に問題視されるようになったのか?」。発表者の回答は「人権の尊重」だった。千葉先生もその見解に同意。「人権意識の高まりが要因だろうね。セクハラにしても、パワハラにしても昔は、嫌なだけども仕方がない、我慢しなければならぬという意識があった。これは児童虐待やDVにも当てはまる」。以前なら問題にならない事象が、人々が問題だと考え声をあげるにより秩序が変わり、法整備がなされ、新たな社会が構築されていく。「社会は客観的に成り立っているのではなく、人々が意味づけすることによって成立しているんです」。千葉先生の専門研究の一端を見た。

マートフォンの機種の変更を題材にしようとした学生がいたが、先行研究やまつわるデータが少なく、方向転換を促したりもしてきた。「やらせてあげたい」というジレンマを抱えながら、学生のため、的確なアドバイスをあおってきた。

「自らの関心事に問題意識を持って進めてほしい。そして、自分なりの意見が入れられれば、レポートはきっと面白くなる」。千葉先生の卒業レポートに対する思いであり、伝えたいメッセージだ。ゼミを通して、もうひとつある。「人間関係ですね。ここで学んだものの大半は忘れてしまいうでしょうが、ゼミ生同士のつながりは残る。大きいですよ」。議論やアドバイスをフィルターに、広く深く、強い人間のつながりが出来上がっていく。これも自由な千葉ゼミの醍醐味だ。

「自分の関心事に問題意識を持って進めてほしい。そして、自分なりの意見が入れられれば、レポートはきっと面白くなる」。千葉先生の卒業レポートに対する思いであり、伝えたいメッセージだ。ゼミを通して、もうひとつある。「人間関係ですね。ここで学んだものの大半は忘れてしまいうでしょうが、ゼミ生同士のつながりは残る。大きいですよ」。議論やアドバイスをフィルターに、広く深く、強い人間のつながりが出来上がっていく。これも自由な千葉ゼミの醍醐味だ。



Professorial Seminars

自分の興味に挑もう! 卒業レポートとゼミは、 学生のためにある

社会学部 現代社会学科 教授

千葉 芳夫

自分の興味のあること、面白と感じた事象を追い求める。学問研究の醍醐味だろう。千葉芳夫先生の現代社会学卒業研究ゼミでは、学生が多様な研究テーマに取り組んでいる。自身の将来のため、社会のため、人々のため。社会学の奥深さを実感する時間となった。

千葉 芳夫 (ちば よしお) 1950年愛媛県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。大谷大学文学部助教授、佛教学社会学部助教授を経て現職。専門は知識社会学。文学修士。主な著書・論文に、「若者の高度成長」(分担執筆) (鈴木正仁・中道實編『高度成長の社会学』世界思想社、1997年)、「揺れるヴェーバー」(『佛大社会学』第25号、佛教学社会学研究会、2000年)、「合理化とマクドナルド化」(分担執筆) (G・リツア、丸山哲央編『マクドナルド化と日本』ミネルヴァ書房、2003年)、「『法社会学』における形式合理性と実質合理性」(『社会学部論集』第43号、佛教学社会学部、2006年)。

「自分の関心事に問題意識を持って進めてほしい。そして、自分なりの意見が入れられれば、レポートはきっと面白くなる」。千葉先生の卒業レポートに対する思いであり、伝えたいメッセージだ。ゼミを通して、もうひとつある。「人間関係ですね。ここで学んだものの大半は忘れてしまいうでしょうが、ゼミ生同士のつながりは残る。大きいですよ」。議論やアドバイスをフィルターに、広く深く、強い人間のつながりが出来上がっていく。これも自由な千葉ゼミの醍醐味だ。

「自分の関心事に問題意識を持って進めてほしい。そして、自分なりの意見が入れられれば、レポートはきっと面白くなる」。千葉先生の卒業レポートに対する思いであり、伝えたいメッセージだ。ゼミを通して、もうひとつある。「人間関係ですね。ここで学んだものの大半は忘れてしまいうでしょうが、ゼミ生同士のつながりは残る。大きいですよ」。議論やアドバイスをフィルターに、広く深く、強い人間のつながりが出来上がっていく。これも自由な千葉ゼミの醍醐味だ。

を作っている段階だ。「自分の関心事」と一口に言っても、当然さまざまにある。「ゼミや卒業レポートは学生が主体。社会学の枠からはみ出さないようにすれば良い」。千葉先生の専門である、社会学における「意識や知識の役割やあり方」をある程度加味することも求めてはいるが、自由度はかなり高い。どうして女性は結婚しなくなったのかという「女性の結婚観」の変遷に取り組んだり、いじめやハラスメントの問題、学歴社会のアンチテーゼを生涯学習に見いだそうとするなど、興味深いタイトルがいっぱいだ。いじめ問題や生涯学習は「教育学」ではないかと思うが、「完全に外れているわけではないから」と、あまり意に介さない。中には「若者の酒離れ」を追究するゼミ生もいて、千葉先生は「今度のコンパで実地に調べてみよう」と、提案しているようである。

なうな掌話 その十七

日本酒の生命線 「德利・お猪口」

「德利」「お猪口」と聞くと、「酒づくりプロジェクト」のミーティングで話した、日本酒のマナーを思い出します。注ぎ手は、相手の盃が3分の1以下になったら酒をすそめ、なみなみ注いではいけません。受け手は、必ず手に盃を持って酌を受けることが大切です。そして何より、「お酒は20歳になってから」。ルールを守り、楽しみたいですね。



佛大 BUTSUDAI なう NOW!

酒づくりプロジェクトとは

「社会連携センタープロジェクト」の一つで、佛教大学が地域連携協定を結ぶ京都府南丹市美山町で酒米(五百万石)を作り、招徳酒造(京都市伏見区)の協力を得て、佛大オリジナルの日本酒をつくるプロジェクトです。活動開始から9年目となる2016年度から正課の授業となりました。春学期の「キャリア開発応用2」で田植えなどの農業体験や酒の文化と歴史を学び、秋学期の「キャリア開発3」で醸造体験やラベルデザイン、販売プロモーションを行います。

有志学生による「酒づくりプロジェクト」が、田植えから収穫、醸造、ラベル作成、販売プロモーションに至るまでの流れを、佛教大学オリジナル日本酒「佛米！夢乃酒」を完成させました。プロジェクトでは、生産から消費に至るまでの流れを体験することができるほか、日本の伝統産業、企業の経済活動を学ぶキャリア教育を目標としています。

「佛米！夢乃酒」完成！



酒づくりプロジェクト 活動1 田植えと収穫

美山町にある佛大コミュニティセンターパスで田植えをします。苗は手で植えます。みんなでワイワイ言いながら少しずつ植えていきます。草取りなどの田んぼの整備をしながら大切に育てます。稲穂が大きくなっていくのを見ると胸にこみあげてくる思いがありました。その後、稲刈りをし、収穫した酒米を招徳酒造に託します。



酒づくりプロジェクト 活動2 ミーティング

みんなで意見を出し合い、酒のコンセプトやラベル、パンフレットなどのデザインを考えます。学園祭では、学生や一般の方にくつがのデザイン案を見てもらい、アンケートを取りました。その結果を参考にしながら納得のいくデザインに仕上げました。



酒づくりプロジェクト 活動3 醸造体験と販売

招徳酒造の酒蔵で醸造体験をしました。貴重な経験だったので緊張しました。出来上がった酒は、ジェイアール京都伊勢丹(京都市



下京区)の和洋酒コーナーで試飲をすすめるなど販売プロモーションを行いました。1本売れるたびにうれしい思いでいっぱいでした。



メンバーの一言

社会学部
公共政策学科 2年生

内海 僚介

参加した当初は農作業だけを体験するつもりでしたが、活動するうちに酒づくりをしてみたいと思うようになりました。ラベルを制作し、僕のデザインが採用されたときは本当に嬉しかったです。家族や親戚、仲間がこの「佛米！夢乃酒」を飲んで、「おいしい!」と言ってくれた時にはものすごい達成感を味わいました。学生生活の大きな思い出になりました。



歴史学部
歴史学科 3年生

高橋 正也

以前から酒づくりプロジェクトに興味を持っていました。田植えに始まり醸造体験、ラベルデザインやパンフレット制作、販売活動と日本酒が店頭で並ぶまでの一連の流れに携わることができたのは私にとって貴重な経験になりました。特にラベルデザイン、パンフレット制作ではお客さんの目線を忘れず、少しでも良いものになるように有志の学生とミーティングを重ねたことが印象に残っています。



編集後記

丹精込めて育てた米からできた酒です。酒が完成したときはもちろん、お客さんに買っていただいたときの達成感は並々ならぬものがありました。田植え、醸造体験、販売プロモーションなど、普段なかなかできない体験ができる機会です。もっと多くの学生さんに体験してもらいたいな、と思います。

招徳酒造社長
木村紫晃さんに聞く
学生が日本酒を造ることについてどう思いますか？

「大きく分けて二つの思いがあります。一つは、酒づくりを通して、日本酒に対して親密感や興味を持ってほしい。酒蔵に入り、間近で醸造の様子を見ながら、酒の匂いを感じてほしいと思っています。二つ目は、日本酒の正しい飲み方を知ってほしい。いい酒の飲み方は、大人になった時に必ず役に立ちますから」

「誰も知らない中国を、掘り起こす」

近現代中国文学から社会と人間を見つめる

文学部中国学科 准教授 瀬邊 啓子



文学作品は、それがフィクションであっても、時代や社会を映す鏡になる。歴史の真実や、今を生きる人間への提言が隠されていたりする。瀬邊啓子先生が追うのは、近現代の中国文学。作品の向こう側にある、知られざる中国の姿を見続けている。

衝撃的だった、民主化運動家の思想

高校は理系。中国の文化に魅せられてはいたが、およそ文学には興味がなかった。



「衝撃を受けた」と語る、文革期文学研究のきっかけとなった著作。

た。そんな瀬邊先生が生涯の研究テーマを得たのは、中国語学科生のとき。一冊の本がきっかけだった。「中国の民主化運動を象徴する人物たちの著作が収められた『火種』です」。当時は天安門事件など、中国に民主化の波が押し寄せ、結局は押し返されてしまう1980年代末。運動家たちの精神・思想に触れ、「ス

テレオタイプの中国文化しかなかった」瀬邊先生は、『三国志』や『水滸伝』とは異なる、リアルタイムの中国の暗い部分を知り、衝撃を受けた。作品には自由を追い求めるパワーが詰まっていた。彼らのルーツはどこにあるのか、知りたくなった。すると、「文革」というキーワードが浮かび上がった。

武漢留学中に著名作家にインタビュー

文革、文化大革命とは、1966年に中国で始まった大衆政治運動。10年に渡り激しい奪権・武力闘争が繰り返され、現代中国の政治・社会に大きな禍根を残し挫折した。『火種』収録作品は、文革中に青春を生き抜いた世代のもの。彼らに

都市生活を語る 面白い作家と暗い作家

「池莉を軸に、同じく武漢在住の作家である方方（ファンファン）を比較対

析を始めた。

象にして検討しました」。どちらも都市生活者の日常を題材にしているが、陽・陰分かれる存在だという。「池莉は恋愛などのドタバタコメディーを描き、方方は社会を皮肉ったり、人間の心の闇を表出させる。方を追うと、都市の変化や問題点がよくわかる」。貧困層の悲劇は、上流家庭にも起こりうるという。後者のシニカルな視点は、中国都市の実状を巧みに捉えていた。同時に、二人の作品が、武漢という町にアイ

デンティティをもたらしたと瀬邊先生は見ている。「彼女らによって、武漢人の性質や土地の特色が明快になり、それを内外に宣伝できた」ことは、文学が持つ力の証左と言えた。

若者の文学に文革期の情勢を見る

本来の目的、文革期文学の研究が本格化したしたのは、ここ10年のこと。ソースには当時刊行の文芸雑誌を選んだ。「文革期に都市から農村に働きに



今や池莉とは友人関係にあり、彼女の著作にはツーショット写真が掲載された。

出された若者、いわゆる知識青年に知青の書いた作品を対象にしています」。その時期の文芸誌には、知青による農村での労働を奨励するプロパガンダ小説が並ぶ。その変

遷などを調べると、興味深い事実が浮かびあがってきた。「例えば『湖北文藝』は、ある時から突然知青の肩書きで作品を発表する作家もいたりして、当局への迎合が如実。一方、『北京文藝』は、知青の作品は少なく、代わりに彼らの弟や妹に知青の魅力を書かせている」。その状況も瀬邊先生は、「北京にも作品を創作できる

「研究を楽しんでいる私を見て、自分もこうありたいなど感じてくれたら嬉しいですね。今後も、好奇心のおもむくままに、誰も知らない中国を掘り起こしていくつもりだ。



瀬邊 啓子(せべ けいこ) 京都府生まれ。大阪大学大学院言語文化研究科言語文化学専攻博士後期課程修了、京都産業大学外国語学部の特約講師などを経て、2008年より佛教大学文学部講師、13年より文学部准教授を務める。専門は中国現代文学、言語文化学。大阪大学博士(言語文化学)。直近の論文に「日本中学国語課本里的《故郷》」(『魯迅研究月刊』2015年第11期)、「湖北文藝」と董宏猷(佛教大学「文学部論集」第99号、2015年3月)など。

面白くなければ、研究は続かない 文革期・文芸誌のさらなる調査と分析、加えて現代作家との関連性など、研究をより深化させていこうと



B-ism 研究材料である文芸雑誌「北京文藝」。ここまで保存状態の良いものは珍しいという。



濱吉 美穂 (はまよし みほ)
大阪市立大学大学院看護学研究科後期博士課程修了。大阪市立大学医学部付属病院(看護師)、居宅介護支援センター(介護支援専門員)、兵庫県立大学看護学部にて勤務。博士(看護学)。

先生のお気に入り アロマオイル

第11回 保健医療技術学部 看護学科講師
濱吉 美穂 先生の巻

favorite

アロマオイル



期待できると言われています。私自身、ボランティアで介護施設などに向かう際にはアロマオイルとホホバオイルを混ぜたマッサージオイルを持って行き、高齢者の方の手や足をマッサージすることも。皆さんのストレスが緩和されていく様子が伺えたり「気持ち



せないものなんです。今後の医療・介護現場での活躍を期待すると同時に、生活のリズムを整えるために欠かせないものなんです。

1日の生活リズムを整えてくれるもの

季節のお花や、料理の中の調味料・香辛料を嗅ぎ当てるなど、子どもの頃から嗅覚が敏感で、もともと香りには興味がありました。植物由来の精油「アロマオイル」を集め出したのは、医療関係の仕事に就いてから。アロマオイルを使う自然療法「アロマセラピー」が代替医療として注目されていることを知り、関心を持ちました。最近ではアロマオイルの一つとしても有名な「ローズマリー」に含まれるポリフェノールがアルツハイマー型認知症やパーキンソン病などの予防や治療に効果が期待できると言われています。

良い」と言っていたら、アロマセラピーの素晴らしさを実感します。他にもアロマセラピーには多くの効能が期待されています。抗菌作用があると言われていたり、冬になるとインフルエンザ予防としてよく使われています。また、ハンドクリームにしたり、お茶に入れたり、湯船に入れたりオイルの使い方もさまざまです。私の最近のお気に入り、気管支に効くと言われる爽やかな香りの「ユーカリ」のオイル。朝、出勤前にはハンカチにつけて、ふとした時の香りにいやされています。また、家の玄関には元気が出る柑橘系、浴室には気持ちが和むフローラル系、寝室にはリラックスできる「ラベンダー」のオイルを置くなど、朝から晩までシーンごとに使い分けています。外出の際にも楽しめるようコンパクトサイズのアロマディフューザーも持ち歩いているんです。私にとってアロマオイルは、今後の医療・介護現場での活躍を期待すると同時に、生活のリズムを整えるために欠かせないものなんです。

B-ism

2016 June

Hello!!

クラブ・サークル見聞録

彼は

「やさしい監督」「楽しいメンバー」「こだわりの活動内容や伝統」など、
佛教学部のクラブ、サークルといった課外活動団体の彼は(あれこれ)を
部員が自ら紹介、語ってくれます。

卓球部



経験値を上げてスキルアップ！ めざすは関西リーグ2部昇格

仏教学部 仏教学科4回生
磯田 幸城さん

学外の選手とも練習する機会が多いのはうちの部の特長。OB・OGの先輩方にパイプ役になっていただき、実業団との合同合宿や、他大学との練習試合などに定期的に参加しています。また、男女混合で練習ができるのも卓球部ならでは。男子は一球一球が重く、女子はラリーのピッチが速い傾向にあり、互いに刺激を受けながら個々のスキルアップに繋がっています。選手としての経験値を上げるためにも、積極的にさまざまな選手と練習する機会を設けています。

日々の練習内容は、主にペア練習やゲーム練習など。見学に来る学生の中には私たちの気遣いに驚く人も多々います。何をかくそつ、僕も入部当初は周囲の選手のレベルの高さに圧倒された一人です。でも、休憩時間になるとお笑いネタをやる人もい



男子3部優勝果たすも入れ替え戦で惜敗
春季リーグ3部で優勝を果たした男子は、入れ替え戦に出場しましたが、流通科学大学に3-4で敗戦。惜しくも昇格を逃しました。多門 倅平さん(社会福祉学科1回生)が敢闘賞を受賞しています。女子は2部5位でフィニッシュ。共に来季に期待の持てる戦いぶりでした。

活動日:月曜~土曜 活動場所:紫野キャンパス

ば、筋トレばかりしている人もいて、みんなとても個性的。部員数は20名ですが、一緒にご飯を食べに行ったり、部員の誕生日をお祝いしたり、男女分け隔てなく本当に仲が良かったです。

現在男子は、関西学生リーグでは3部の上位。5月の春季リーグ戦で勝ち抜けば、2部に昇格することができます。リーグ戦は他の試合よりも注目度が高く、対戦相手や観客からのプレッシャーを感じやすいため、いかに自分の力を発揮できるかが勝敗を決める鍵となります。僕自身、その独特の雰囲気にもまれ、思うようなプレーができなかったことも。なので、今は常に試合を意識した練習を心がけており、一球一球を大事にするようみんなと声を掛け合っています。僕たち4回生の引退試合でもある春季リーグ戦。何としても勝ち抜き、2部昇格を達成します！

映画部



監督にも俳優にもなれる！ 得意分野を活かして映画を制作

社会学部 現代社会学科3回生
奥 菜摘さん

映画監督をやってみたい方、演技に挑戦したい方、脚本や演出、小道具作りに興味がある方。オリジナル作品を自主制作している映画部なら、明日にでもその夢が叶うかもしれません。ジャンルは恋愛もの、ギャグ、アクションとさまざま。構想を練るのも、脚本を書くのも、監督も、演者もすべて部員同士で分担。それぞれが興味のある役割をこなしています。ちなみに私は役者志望。最近大好きなホラー映画で、幽霊役を演じました。5分ほどの短編で完成まで数日という作品でしたが、楽しかったですね。映画だけでなく、依頼を受けて企業の紹介ビデオや、他のクラブの演奏会・試合撮影も行っています。

制作した映画は、不定期に実施している他大学との合同上映会で発表、お互いの作品を評価し合うことで刺激をもらって



活動日:火曜・金曜 活動場所:紫野キャンパス

ます。一般の方にも観ていただきたいので、学園祭でも上映しています。部員の作品がテレビ番組で紹介されたこともありました。

ある程度の専門知識は必要ですが、初心者でも大丈夫。毎年5月には先輩の指導のもと、新入部員が中心になって映画を制作する機会を設けています。わからないことは親切な先輩が都度アドバイスをくれるので安心してください。現在部員は70人以上と大所帯ですが、高校までは他の部活動をしてきた人も多く、元写真部の人は静止画編集を、お花好きの人は小道具用の花束を担当するなど、みんなそれぞれの得意分野を活かしながら活動しています。みなさんも自分の能力を発揮しながら、一緒に好きな映画を作りましょう！

OB
OG
訪問



中川 学(なかがわ かく)
1966年京都生まれ。小学校3年生に得度、高校2年生に西山禅林寺(永観堂)にて加行。1990年に佛敎大学文学部仏敎学科卒業後、大手広告代理店にて求人広告制作部に6年間勤務。その後、自坊である京都の瑞泉寺にもどり僧侶とイラストレーターを兼業。現在任職。

世界が注目する イラストレーター ×僧侶

イラストレーター 兼「瑞泉寺」住職
中川 学さん
佛敎大学文学部仏敎学科卒業



漫研で学んだ「先入観を捨てる」
累積売上31万部を誇るベストセラー『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』（汐文社）をご存じだろうか。これは、2012年の国連

大会で学んだ「先入観を捨てる」
漫画の描き方から本の作り方までを教わった。印象的だった助言は「先入観を捨てる」。「リング」は赤色と思ひ込みがちだ

会議で行われたウルグアイのホセ・ムヒカ前大統領の演説をもとに作られた絵本で、作画を手がけたのは中川学さん。海外雑誌の挿絵・表紙絵なども手掛けており、ドイツの出版社には「世界が注目すべき」と評される気鋭のイラストレーターにして、実は僧侶。京都の三条木屋町にある浄土宗西山禅林寺派の寺院「瑞泉寺」で住職を務める本学OBだ。

大学時代から絵を描くことに熱中。漫画研究会に所属し、会の先輩からは絵・漫画の描き方から本の作り方までを教わった。印象的だった助言は「先入観を捨てる」。「リング」は赤色と思ひ込みがちだ



中川さんは、クリエイターの仲間とオリジナル作品の展示会を開き始める。06年には念願だった泉鏡花

の活躍に期待したい。中川さんの今後の活躍に期待したい。

B-ism

2016
June

子どもと真摯に向き合い、 信頼される先生に



通信教育課程教育学部教育学科 6回生
三明 一奈さん

3年間のアルバイトで学費を貯める
「先生になりたい」。その夢はずっと変わっていない。ボランティア活動時も、フリーターだった頃も、本学に入学した当時も、今も、ずっとだ。

三明一奈さんの半生は、若くして中々に劇的だ。兵庫県で生まれ、高校は商業科に進学。「何となく」同科の教員をめざして、滋賀の大学へと進んだ。「ボランティアサークルで障がいのある子どものお世話をしたんですが、一緒に遊んだり作ったりするのが楽しくて」。小学校や支援学校の先生になるのも良いなと思い始めた矢先、家庭の事情で一年での退学を余儀なくされる。「自暴自棄になりかけましたよ。でも、結果オーライ」と笑って振り返るが、小さくない挫折だった。サークルで知り合った人の紹介で放課後デイサービスや訪問介護の職に就くも、やがて「もっと専門的に勉強したい、教員免許を取りたい」という思いを募らせるように。ただ、先立つものがなかった。アルバイトを掛け持ちして3年間、学費を貯めた。佛敎大学のことば、アルバイト先の同僚から聞いた。教育学部もあるし、通信

なら働きながら学べる。二年次編入と同時に、「切り替えてく」と大阪への引越しを決めた。

新鮮で刺激的だったキャンパスライフ

勉強も大事だが、新たに仕事も探さなければならぬ。幸いにもすぐに児童保育の職員に採用されたが、履修計画は何も立てていなかった。「焦って、とにかくスクーリング（面接授業）に行きました」。子どもの障がいに関わる事柄はもちろん、仏教や歴史に至るまで、授業は何もかもが新鮮だった。体育の授業では初めて跳び箱8段を跳ぶ。「この喜びを伝えられる教師になりたい」、そう思った。リポーターもすっかり提出しながら、一昨年には小学校に教育実習へ。学年の高低によって言葉を使い分けなさいという指摘を含め、大いに刺激を受けた。「目標が明快なだけに、最初」の大学時代よりも楽しくて仕方ない。現在は卒業に必要な単位も残りわずかに。秋には念願の特別支援学校実習も控える。「恩返しのため引き受けた」と、通信教育課程校友会では大阪支部長と本部の会計監査役を兼任。充実したキャンパスライフを送ってきた。



バイトリティにあふれるが、「小・中学校では先生とそりが合わずに」学校を嫌悪した時期もあった。高校で、自分の話を耳を傾けてくれ、的確なアドバイスをくれる担任に出会い、教師の見方と反抗期を省みたという。「子どもと真摯に向き合い、信頼関係を築いて『あの先生がいるから学校へ行こう』、そう思われるようになりたい」。夢が叶うまで、あと少しだ。

が、実は複数の色が混ざっている。それを描かないといけない」。卒業後は大阪の広告代理店で6年間勤務。コピーライター、ディレクター業務を中心に、広告の挿絵を描くこともあったが、住職の父親からの勧めや子どもの誕生を機に帰郷。自坊を継承すると同時に、イラストレーターとしての活動もスタート。30歳の頃だった。

個展を機に連載小説の挿絵を受注

パソコンソフトを使い、マウスを巧みに操り描かれる中川さんの絵は、ムヒカ前大統領から「知的」と評価を受け、ファンからは「和ポップ」と称される。しかし、今の画風に辿り着くまでには葛藤もあったという。

独立当初は、請われるままに求人広告の挿絵などを1日に何点も描いた。「アニメキャラクターのタッチに寄せた絵を頼まれることもありまして」。何でも描けると自信を深めていた頃、壁にぶつかった。「自分の画風」を持っていない。

イラストレーターとして将来に危機を感じた中川さんは、クリエイターの仲間とオリジナル作品の展示会を開き始める。06年には念願だった泉鏡花

の活躍に期待したい。中川さんの今後の活躍に期待したい。



泉鏡花原作の絵草子「龍潭譚」

の小説「龍潭譚」を題材に、東京で初の個展を開催。文字のレイアウトから装まで全て自分で仕上げた絵草子は出版社の目に留まり、週刊誌連載小説の挿絵の受注が決まった。「学ぶことが多く、今のスタイルを築き上げた時期でもあった」。

はじめは抵抗もあったイラストレーターと僧侶の両立。今では「フィードバックできる関係」と、前向きに捉えている。学生時代に極楽浄土の教えを描いた「當麻曼荼羅」から「視覚的な表現手法」を学んだ。よく用いる「歪んだ線」には、仏教と通じるものがあると感じている。「人間が持つあなたかみや個性って、ある種の歪み。この『まっすぐなんてつまらない』というのは、どこか仏教的な考え方なんですよね」。イラストレーターだからこそ導ける教えがある、僧侶だからこそ描ける絵がある。



田原 完行(たはら ただゆき)
佛教大学文学部仏教学科卒業(1982年3月)
奈良県立橿原高等学校教諭(1982年4月~1985年3月)、奈良県立吉野高等学校教諭(1985年4月~1993年3月)、奈良県立五條高等学校教諭(1993年4月~2011年3月)、奈良県立桜井高等学校教諭(2011年4月~2013年3月)
本学硬式野球部コーチ(2014年4月~2016年3月)
※桜井高にて2013年夏季大会甲子園出場(コーチ)

OBコーチメッセージ



コーチ
國友 健一
くにともけんいち

【学歴】佛教大学文学部人文学科卒業(2008年3月)
【略歴】本学硬式野球部所属(2004年4月~2008年3月)、社会人野球チーム「OBC高島」所属(2008年4月~2012年3月)、本学硬式野球部コーチ(2013年4月~現在)

今年から監督としてチームを率いるにあたり、野球の技術を向上させていくことはもちろん、それ以上に「佛教大学の情操教育を取り入れた」チームづくりをおこない、日本一を目指していきます。

意外かもしれませんが、野球と本校の基本理念は相性が良いんです。スポーツでは、まず「勝ちたい・成功したい」という『欲』が

「この考えがプレーの根底にあれば『くじけても立ち直れる強さ』を持つ。すると前を向いて勝負に挑め、自ずと試合の結果にも出てくるんです。勝負にこだわり過ぎると欲がでるけれど、欲を超えた精神力を持てれば強いチームになれます。その『強さ』を部員に身に着けてもらえるよう、取り組んでいきます。」

コーチとして今年で4年目。部員たちが限られた時間の中で、少しでも野球と大学生活を充実できるようサポートしています。今年はプロを目指す部員もいるほど能力の高い選手が多く、指導者としても楽しみを感じています。

硬式野球部
「勝ちたい」の向こうに勝負を制する秘策が
監督 田原 完行

指導スタッフ体制

- 部長 内藤 三義
- 顧問 蛭田 修(新任)
- 相談役 小川 光廣
山口 優子
中村 隆司
- 監督 田原 完行(新任)
- コーチ 國友 健一



4月より新しく監督を迎え新体制がスタートした「陸上競技部 女子中長距離部門」と「硬式野球部」の監督にインタビューを敢行。OB コーチからもメッセージをいただきました。



北野 剛教(きたの たけのり)
京都教育大学教育学部体育学科II類卒業(1986年3月)
京都府立宮津高等学校教諭(1986年4月~1994年3月)、1999年4月~2014年3月)、京都府立東舞鶴高等学校教諭(1994年4月~1999年3月)
京都府教育庁指導部保健体育課指導主事(2014年4月~2016年3月)
※宮津高にて木崎良子(佛教大学~ダイハツ)、西原加純(佛教大学~ヤマダ電機)、川島利佳(佛教大学~キャノンAC)、澤美加(佛教大学~TOTO)を指導。



OBコーチメッセージ



コーチ
越智 純子
おちじゅんこ

【学歴】佛教大学教育学部教育学科卒業(2005年3月)
【専門】中長距離
【略歴】本学陸上競技部所属(2001年4月~2005年3月)、TOTO陸上競技部所属(2005年4月~2010年1月)、TOTO陸上競技部マネージャー(2011年6月~2015年3月)、本学陸上競技部アドバイザー(2015年4月~2016年3月)

女子の中長距離部門は近年結果を残せていませんが、世界陸上や実業団で活躍する選手を輩出して、「強いチーム」という印象がありました。その「強い佛大を復活させる」そんな想いを持って、この度監督に就任いたしました。

現在、新チームでは「チーム佛大・心はひとつ・全員駅伝」というスローガンを掲げ、日々トレーニングに励んでいます。さしあたっての目標は、全日本の駅伝でシード権を獲得、その上で日本一を目指すチームづくり、佛大「中長距離強化」から、10年目に全日本で優勝という経緯を踏襲し、3年後の20年目にも優勝。そして節目の年に「絶対佛大が優勝」という伝統をつくりたい。さらにはユニバーシアード

や都道府県対抗女子駅伝で活躍する選手の育成、卒業後、実業団に送り出し、日本代表選手が輩出できれば嬉しいですね。最後に、結果にかかわらずチームの強みである「笑顔」を大切に、部員にはいつも笑顔で「いろんな方に感動してもらって、勇気を与えられる」そんな走りをしてもらいたいと思います。

陸上競技部 女子中長距離部門
笑顔のあるチームで強い佛大を取り戻す
監督 北野 剛教

指導スタッフ体制

- 部長 山口 孝治
- 顧問 二澤 善紀(新任)
- 監督 北野 剛教(新任)
- コーチ 越智 純子
田中 裕介
シニアアドバイザー 中川 善彦
栄養士 吉岡 明寿佳(新任)



保健医療技術学部

過去10年で最難関 1期生60名全員合格

看護学科1期生となる3月卒業生60名が、看護師国家試験(受験者数/60名)と保健師国家試験(受験者数/14名 ※保健師・看護師両方を受験)に挑み、全員が合格を果たしました。



対応できました。1期生全員が合格してくれたことは、2期生以降の学生の励みに。

また、これから入学する学生の目標にもなってくれました」と話します。

看護学科1期生は今後、病院勤務をはじめ、製薬会社や大学院・助産師学校などへの進学と、それぞれの道に進んでいきます。

多くの卒業生が合格 学んだのは「患者のため」

また、開設から10年を迎えた、理学療法学科・作業療法学科でも、今年卒業生のうち67名が国家試験を受験し、理学療法士国家試験 35名・作業療法士国家試験 29名合格という快挙を果たしました。 今回の結果を受け「多くの卒業生が合格を果たせたのは、優れた先生による多様性のある教育と、まじめでよく勉強する先生方の情熱を受け取れるようなキャンパティをもつ学生が揃い、周囲からも評価いただける教育ができた結果」と、漆

葉学部長。 今後も理学療法学科・作業療法学科をはじめ、保健医療技術学部では「地域を大切」にし「患者さんに寄り添う・患者さんのために仕事をする」ことを想う。大変なことだけれども、そこに意義を感じる」そのような想いをもった学生を育てていきます。



保健医療技術学部長 漆葉 成彦

第105回 看護師国家試験	[全国] 合格率 89.4%
本学	受験総数 60名 合格者数 60名 合格率 100%
第102回 保健師国家試験	[全国] 合格率 89.8%
本学	受験総数 14名 合格者数 14名 合格率 100%
第51回 理学療法士国家試験	[全国] 合格率 74.1%
本学	受験総数 38名※ 合格者数 35名 合格率 92.1%
第51回 作業療法士国家試験	[全国] 合格率 87.6%
本学	受験総数 29名※ 合格者数 29名 合格率 100%

※2015年9月卒業生含む
理学療法士・作業療法士/合格率出典
厚生労働省「第51回理学療法士国家試験及び第51回作業療法士国家試験の合格発表について」より
http://www.mhlw.go.jp/general/sikaku/succeslist/2016/siken08_09/about.html

1

滋賀県と就職支援に関する協定を締結

滋賀県内の企業等への就職を希望する学生の支援ならびに就職等の促進を目的に滋賀県と就職支援に関する協定を締結しました。本協定により、本学在籍学生のうち3番目に多い滋賀県出身者をはじめとする学生や保護者への情報提供やインターンシップの受け入れ支援など、今後の展開が期待されます。 3月16日、滋賀県公館での協定締結式には、本学の田中典彦学長と滋賀県の三日月大造知事が出席し執り行われました。

5 滋賀県と佛教大学との協定に関する協定 締結



2

平成28年度入学宣誓式を挙

4月1日、紫野キャンパス鷹陵館メインホールにおいて平成28年度入学宣誓式が挙行され1758名が入学しました。 大学院・学部・別科それぞれの新生代表が入学者宣誓・署名を行い、田中典彦学長の告辞が述べられ、浄土門主のご垂示、学校法人佛教教育学園理事長のご祝辞をいただきました。



3

「朝食を食べよう週間」で“100円朝食”を用意

朝食を食べる習慣を通じて、しっかりと生活習慣を身につけて欲しいという思いから本学教育後援会(保護者会)の支援を受け、4月に紫野、二条の両キャンパスの食堂メニューに「100円朝食(日替わり)」を用意し、のべ約934名の学生が利用しました。



4

学生有志が「熊本地震」募金活動を実施

4月18日から22日まで紫野キャンパスおよび二条キャンパスにおいて、学生を中心に災害義援金募金活動を行いました。今回、お寄せいただいた募金(合計358,921円)は、同25日に被災地の復興支援を目的に開設された「佛教大学義援金口」の銀行口座に集約して、日本赤十字社へ寄付させていただきました。



2016年度新学部長

2016年4月1日より次のとおり、新たに学部長が就任いたしました。

- 仏教学部 松永 知海(新任)
- 文学部 鶴飼 光昌(新任)
- 歴史学部 渡邊 秀一(再任)

6 佛教大学 グッドマナープロジェクト 清掃・啓発活動



2012年の本学開学100周年を機に始めた、学生・教職員による清掃活動「全学まちピカ☆大作戦」、またキャンパス内全面禁煙(無煙)に向けた活動の一環として、京都市の認証を受けた「たばこマナー向上活動団体」の取り組み、さらに学生生活におけるマナー全般の向上をめざし、昨年度から「佛教大学グッドマナープロジェクト」の名のもと活動しています。主な活動内容は、教職員および本学ボランティアサークル「しゃいばん」ほか学生有志とともに、授業開講期間中の月1回、学内清掃およびグッズ配布によるマナー啓発を行っています。

7 礼拝堂、完成間近

法然上人のみ教えを涵養する場として、本学の新しいシンボルとなる礼拝堂(水谷幸正記念館)は、今秋の完成を目指し建設が進んでいます。



次号(No.13、12月中旬発行予定)にて、詳しくお伝えします。

社会福祉学部

横山 壽 (教授)
社会福祉学科
社会保障学

社会学部

大貫 孝学 (准教授)
現代社会学科
ジェンダー論、臨床社会学、社会学理論

教育学部

生田 義久 (特別任用教員)
教育行政

孫 樹喬 (契約講師)
中国学科
中国語学、日本語学、日中対照言語学

文学部

稲永 知世 (特別任用教員)
談話研究

2016年度 教員・職員

新規採用者紹介
教員は学科と専門を、職員は所属を表記 ※特別任用教員は学科表記なし

保健医療技術学部

三田村 なぎさ (助教)
看護学科
成人看護学 (慢性期)

新田 利子 (助教)
看護学科
基礎看護学、基礎看護技術、看護教育

黄波戸 航 (助教)
看護学科
小児看護学

山本 直美 (教授)
看護学科
基礎看護学

浜崎 優子 (教授)
看護学科
公衆衛生看護学

植村 小夜子 (教授)
看護学科
在宅看護学

職員 国際交流センター 教職支援センター

佐野 宏成
附属幼稚園
事務局

木戸 希
研究推進部
社会連携課

岸本 彩香
生涯学習部
通信学務課

伊勢間 健史
学生支援部
教職支援課

Henry Foster (契約講師)
応用言語学

松本 賢一 (実習指導講師)
社会科教育

2015年度退職教員

文学部

孫 潔 (中国学科 外国人契約講師)

教育学部

石川 美智子 (特別任用教授)

社会学部

君塚 大学 (現代社会学科 教授)

広瀬 卓爾 (現代社会学科 教授)

谷口 浩司 (公共政策学科 教授)

保健医療技術学部

芝山 江美子 (看護学科 教授)

新田 紀枝 (看護学科 教授)

八木 彌生 (看護学科 教授)

秋山 直美 (看護学科 助教)

奥村 歳子 (看護学科 助教)

奥村 真美 (看護学科 助教)

山根 朋子 (看護学科 助教)

教職支援センター

青山 芳文 (実習指導講師)

福祉教育開発センター

大森 弘子 (実習指導講師)

B-ism

2016 June

第9回佛教大学 小学生俳句大賞 結果発表

小学生に言葉の楽しさを体験してもらいたいとの願いから始まった「佛教大学小学生俳句大賞」。今回は、国内外の児童から39,862句の作品が寄せられました。選考委員による厳正な審査による入賞作品を紹介します。



高学年最優秀賞

カマキリがジャングルジムにさかだちだ

石川県 白山市立北陽小学校 4年 森下 莉子



低学年最優秀賞

たおれてる自転車さえもわっわわっわ

京都府 立命館小学校 2年 金田 伶子



優秀賞

なつ休みよんほりしてランドセル

鹿児島県 南さつま市立坊津学園小学校 1年 金倉 慈

ふゆ休みママの手にきりあさねぼう

鹿児島県 鹿児島市立山下小学校 1年 田崎 佑治

ささいものはっぱはごっの耳みたい

愛知県 碧南市立白進小学校 2年 榎本 豊

かたむらちきぼうはゆっくりまわりま

愛媛県 愛南町立家串小学校 2年 松原 琉也

春の風ほくのぼつしが好きみたい

京都府 京都教育大学附属京都小中学校 4年 糸永 彩華

1-5年ぶり寝巻の空に虹

鹿児島県 奄美市立小湊小学校 5年 泉 沙葉羅

しもぼしり葉っぱが服を着てるよう

兵庫県 芦屋市立宮川小学校 5年 山田 開翔

しゃぼん玉桜のはなびらよけながら

兵庫県 伊丹市立福野小学校 6年 西田 七菜

選考委員特別賞

さむい朝教室かけこみ九九を言う

石川県 白山市立北陽小学校 2年 磯端 拳成

テスト中ごそりぶった白い雪

京都府 与謝野町立加悦小学校 5年 小林 里瀬

雲やぶり光がささる冬の海

京都府 京都教育大学附属京都小中学校 3年 高村 晃生

れんごんのあなからみえるみらいかな

京都府 宇治市立御蔵山小学校 6年 本西 真帆

田中 典彦選

わたりににはみがきしてはまごあるき

岐阜県 東海市立串原小学校 2年 安藤 向日葵

雪うさぎ春に引ひこすお友達

兵庫県 西宮市立生瀬小学校 6年 赤松 愛琉

坪内 稔典選

大そうじふいたところはふまないで

京都府 南門市立宮島小学校 2年 中島 桜太郎

姉ちゃんと顔が似ている鬼やんま

和歌山県 那智勝浦町立幸久井小学校 5年 湊谷 恭央

原田 敬選

おかさんのせなかにあせのせかいちず

鹿児島県 南さつま市立坊津学園小学校 1年 前田 大雅

せんぶうき何ごともない水曜日

愛媛県 愛南町立家串小学校 4年 兵頭 玲勇

山本 純子選

かがみさじつとっているじびれたかな

愛知県 碧南市立白進小学校 2年 都築 和琴

子どもだけ電車に乗って夏休み

東京都 板橋区立赤塚小学校 5年 神尾 日陽

入試に関するお知らせ

オープンキャンパス

[日程] 7月31日(日)、8月7日(日)、10月9日(日) [場所] 紫野キャンパス・二条キャンパス同時開催

公募制推薦入試

試験日	試験会場
11月22日(火)・23日(水・祝)・24日(木)	本学(紫野キャンパス)・金沢・名古屋・彦根・舞鶴・大阪・神戸・奈良・和歌山・岡山 ※11月24日は本学と大阪のみ実施

*一般入試A日程、一般入試B日程の試験日等は、次号(No.13)でお知らせします。
*各入試の出願期間、試験科目等入試概要は本学ホームページ「受験生ナビ」(http://www.bukkyo-u.ac.jp/find/)をご覧ください。

お問い合わせ先：入学部

宗教文化ミュージアム イベントカレンダー(2016年6月~11月)



宗教文化ミュージアム

宗教文化に関する有形・無形文化財の調査・資料収集および保存・公開、宗教文化情報の高度利用化などを行い、その成果を広く公開しています。

- 開館時間 10:00~17:30(※入館は17:00まで)
- 入館料 無料
- 休館日 ホームページ等でご確認ください

アクセス

- JR京都駅より京都市バス、「山越」より徒歩13分
- 三条京阪前より京都市バス、「山越」より徒歩13分、「広沢池・佛大広沢駅前」すぐ
- 佛教大紫野キャンパスより京都市バス、「山越」より徒歩13分、「広沢池・佛大広沢駅前」すぐ

お問い合わせ先

宗教文化ミュージアム
〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26
TEL:075(873)3115 FAX:075(873)3121

日時	内容
開催中~6月26日(日)	春期特別展「発遣来迎 — 釈迦・弥陀二尊が示す道 —」 ※作品保護のため月曜日休館
8月20日(土) 14:00 ~	シアター上映会「魔を祓う剣鋒 — 町を包む音と光 —」 解説：大森 康宏氏(国立民族学博物館名誉教授) 藤田 修氏(株式会社藤田造園代表取締役) 八木 透(本学歴史学部教授、本館研究協力者)
9月18日(日) 14:00 ~	第32回シアター公演「乙訓・鶏冠井の題目踊」 出演：鶏冠井題目踊保存会(京都府指定無形民俗文化財) 解説：福持 昌之氏(京都市文化財保護課技師)
10月29日(土)~11月20日(日)	秋期特別展「近代の大蔵経・宗典叢書と仏教辞典類の刊行」 ※作品保護のため月曜日休館(ただし10/31は開館)
11月5日(土) 14:00 ~	第33回シアター公演「播州明石・大蔵谷の獅子舞」 出演：大蔵谷獅子舞保存会(兵庫県指定無形民俗文化財) 解説：川村 清志氏(国立歴史民俗博物館准教授)
11月12日(土) 14:00 ~	秋期特別展関連講演会「近代の大蔵経・宗典叢書と仏教辞典類の刊行」 講師：末木 文美士氏(国際日本文化研究センター名誉教授) 梶浦 晋氏(京都大学人文科学研究所東アジア人文情報学研究中心) コーディネーター：松永 知海(本学仏教学部教授、本館研究協力者)



今号巻頭の座談会のテーマは「佛教学の障がい者支援」。出席された先生方には大学の取り組みを語っていただきましたが、読者の皆さまには「今、自分ができる“支援”を考えるきっかけとなれば幸いです。」
「hot-TOPICS」で取り上げていますとおり、「礼拝堂」が今秋に完成します。本学周年記念事業の一環として平成20年度より始まった、紫野キャンパス整備計画はいよいよ大詰めに。次号(No.13・平成28年12月発行予定)では「礼拝堂」を中心に、新キャンパスを紹介します。

佛教学部 広報課

B-information

みんなの掲示板

2016年 主な行事予定

「法然思想に関する私見」
●講師：松本史朗(駒澤大学仏教学部教授)
●場所：佛教学部紫野キャンパス 常照ホール(成徳常照館5階)
*12:30より受付開始
参加申込み不要、入場無料

Date 7/9 (sat.) 13:30~16:00

法然仏教学研究センター講演会

学位記・卒業・修了証書授与式(通学課程・通信教育課程9月卒業・修了)

Date 9/25 (sun.)

礼拝堂(水谷幸正記念館)落慶式・佛教学部創立記念式典

Date 10/22 (sat.)

10/23 (sun.)

佛教学部創立記念日

Date 11/4 (fri.) ~ 11/6 (sun.)

第50回鷹陵祭(学園祭)

Date 11/6 (sun.)

ホームカミングデー

佛教学部の同窓生を対象として開催します。学間に課外活動に、青春時代を過ごした大学に、ぜひお越しください。

「B-ism」のバックナンバーが見られます

当誌「B-ism」は、佛教学部広報課が発行する広報誌です。

佛教学部の「人・教育・研究」などを、より多くの方々に知っていただく目的で、「佛教学主義」を基本テーマとしたさまざまな企画をお届けしています。

これまでに発行された「B-ism」は本学ホームページからも閲覧できます。

アドレス⇒<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/publicity/>

[トップページ](#) ➡ [大学紹介](#) ➡ [大学広報](#)

読者プレゼントの 佛大オリジナルグッズをプレゼントいたします。お知らせ 同面添付のアンケートハガキにてご応募ください。

佛米! 夢乃酒 2015 (純米吟醸・720ml)

5名様

10名様

「ぶったん」イラスト入り タオルハンカチ

※「佛米! 夢乃酒」へのご応募は20歳以上の方に限りさせていただきます。

佛教学部公式Facebookページを開設しています!

本学ホームページ同様、大学の“今”を発信しています。ぜひご覧ください。

【公式Facebook URL】
<http://www.facebook.com/bukkyo.univ>